

序

熊本野生動物研究会会長

西岡 鐵夫

1985年（昭和60年）12月7日にわずか6人の呼びかけで産声を上げた熊本野生動物研究会は、早くも6年目を迎えている。

この間、野生動物にとどまらずその基盤となる植物相も含めた調査研究を行ない、自然教育の発展に寄与することを目指して活動を続けてきた。現在では会員数も53名となり、その職種は農林業、公務員、教職員、マスコミ関係者など多岐にわたり、着々と実力をつけ、熊本県内有数の研究会に成長していることを確信している。

今回の会誌第1号は、この間の会員の調査研究の一部で、編集委員のたび重なる会議の結果まとめられたものである。その内容の学術的高さは、会員および編集委員の努力のあとをしのばせるものではなかろうか。日本全国に数多くある民間研究会の中でも、ここまで成長してきたものは珍しいと思う。

この会誌が自然を愛する多くの人々の眼にとまり、本会の設立目的を発展させる貴重なご指導とご助言をいただく端緒にでもなれば幸甚に思う。